

間違い探し

今回のテーマは、間違い探しです。といっても、2 つの絵を見比べて、違うところを見つけるやつではありません。今回間違いを見つけるのは、Power Automate のフローの間違いです。

Power Automate でフローを作成した場合、いきなり実際の業務で使い始めることはなく、作成したフローがうまく動作するかテストします。その際、最後まできちんと実行されればいいのですが、実行が途中で止まってしまうことも多いです。途中で実行が止まってしまった場合には、どうやって直せばいいか、ということを今回は説明します。

まずフローを作成する際の基本として、一通り最後まで作成してからテストするのではなく、少し作成したらテストする、という作業を繰り返して一通り動作するフローを完成させ、その後、最初から最後まで望んだ動作になっているか確認するようにする、ということを押さえておきましょう。一気に最後まで作成した後でテストすると間違いを直しにくいです。少し作成してテストする、という作業を繰り返して最後まで完成させるというやり方をすると、間違いを直しやすくなります。なぜそうなるかという、後者のやり方をすると、テストが終わった部分については間違っていないと仮定できます。作成したフローがうまく動作しない場合には、新たに作成したちょっとの部分が間違っているのです。そこだけ見れば間違いを探せる状態にすることができます。作成するのは人間ですので完璧ということではなく、テストしたにもかかわらず間違っていることに気付かなかったという場合ももちろんあります。ですので、テスト済みのところは間違いがないと仮定するのはおかしいと言われればそうなのですが、それでも、一気に最後まで作成してからテストしてきちんと動作するか確認するよりもこまめに確認した方が間違いを探しやすいと思います。なぜなら、こまめにテストすると、フローの動作をより詳細に把握することができるからです。

テストをした際、途中でフローの実行が途中で止まってしまったら、どのアクションでどのような理由で止まったか調査します。とはいっても、画面を見れば簡単に分かります。図 1 に示すように、ウィンドウ上部になぜフローが止まってしまったのかが分かるようなメッセージが赤帯内に表示されます。このメッセージをエラーメッセージといいます。エラーメッセージを読んで原因を知り、失敗しないよう対策します。エラーメッセージは日本語で書かれていることもあれば英語で書かれていることもあります。どちらで書かれている場合でも、よく分からない時にはメッセージをコピーして Google 等で検索してください。そうすれば何が原因でどうすれば解決できるか解説しているページがたいていあります。

どのアクションでフローの動作が停止したかということも簡単に分かります。図 2 のように、! が右上に表示されているアクションが処理できなかったアクションです。エラーメッセージを基に何が原因か調査し、実行に失敗したアクション、あるいはそれより上のアクションの設定を変更します。アクションに入力される値が間違っていることが原因でそのアクションで処理に失敗することもありますので、どのような入力があったか知ることも必要な場合もあります。アクションをクリックしたらそのアクションへの入力とそのアクションの出力が画面左側に表示されるので、そこを見ればどのような入力があったか確認することができます。入力が間違っていて動作が停止した場合には、その入力値を出力したアクションの設定を変更します。

このように調査してもどうしてもうまく動作させられない場合には、DX 推進室に問い合わせしてみてください。解決できるかもしれません¹⁾。

フローを作成していると失敗することも結構ありますが、失敗は成功の母とも言いますし、失敗すると多くのことを学べます。フローの作成にチャレンジし、いろいろ経験してみてください。

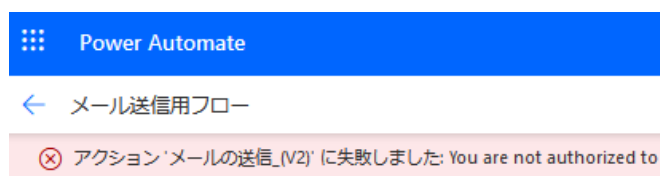


図 1

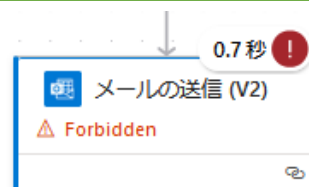


図 2

¹⁾ 残念ながら解決できないこともあります